

序

厚生労働省から現在、日本には462万人の認知症患者がいることが報道された。2年前には200万人とされていた。この2年間で急速に増えたわけではなく、262万人が見逃されていたと考えられる。特に軽度の認知症が見逃され、早期診断・早期治療の機会を逸していると考えられる。現在、認知症専門医は全国に約2,000人と推計され、462万人の認知症患者に対応できる数ではない。このため、かかりつけ医による認知症診療が期待されている。

アルツハイマー型認知症の薬剤が4種類となり製薬メーカーによる認知症の研究会も増えているが、かかりつけ医が認知症診療のノウハウをシステムティックに学べる機会は少ない。私は日本内科学会において何度か、認知症のノウハウを学ぶ実践セミナーを開催させていただいている。このセミナーは、アンケート結果からも「明日からの認知症診療にすぐに役に立つ」と大変好評を頂いているが、実践セミナーのため1回に受講できる人数に限りがあり、情報が広く提供できていない。

そこで、このたび羊土社から本セミナーの内容ができる限り忠実に再現し、書籍化してはどうかというご提案を頂き、本書の編集をすることになった。本書が、かかりつけ医の先生の「明日からの認知症診療にすぐに役に立つ」ものとなることを祈念している。

2014年6月

鳥取大学医学部保健学科生体制御学講座
環境保健学分野
浦上克哉